学校だより　6月号　令和　6年　5月31日発行

大原

品川区戸越6-17-3
電話（3781）4487
FAX（3781）4808
品川区立大原小学校長　隈部　洋子
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ https://oohara-es.shinagawa.andteacher.jp/　ﾒｰﾙ s26gakko@city.shinagawa.tokyo.jp

未来を創る学び

副校長

変化が激しく先を見通すことが難しいと言われる現代。街へ出ると、スローモビリティで移動する人や、お店でセルフレジを利用する光景も、日常的なものとなりました。

大原小学校でも、お便りに二次元コードを記載したり、デジタルアンケートでご家庭へ調査をお願いしたりする機会が増えてきました。子どもたちは、タブレット端末を学習時のツールとしてお互いの考えを共有したり、今日の気分を記録したりしています。

このような変化は、便利さが向上しているように感じますが、手元にスマートフォン等が無い場面では、不便さを感じることもあります。そして、子どもから見ればリアルタイムの現実に過ぎません。では、子どもたちは未来をどのように捉えているのでしょうか。

2022年実施『18歳意識調査－国や社会に対する意識調査』によると、自分の国の将来について、日本が「良くなる」と答えた18歳世代の割合は15.9%（参加国中最下位）であり、「多少のリスクが伴っても新しいことに挑戦したい・高い目標を達成したい」と回答した割合は5割を切る結果が出ています。若い世代に悲観的な見方が多い可能性を踏まえると、未来に生きる子どもたちにとって必要な学び方や教育について、改めて考えさせられます。

先日、1・2年生が「投げ方教室」を行った際、元プロ野球選手の講師から教わった子どもたちは、「前よりも遠くへ投げられた。」、「もう少し練習したらもっと投げられそう。」と充実感たっぷりの表情で感想を教えてくれました。本物に触れながら体験し、学びの成果を実感できた表情でした。今後、どのような未来が訪れても、子どもたちが自分で考え、力を合わせて行動し、現実を創り出す経験がより一層重要になることを、子どもたちから教わったと感じました。

そして、「ふるさと大原」のスローガンの基、子どもたちが実体験を通して関わり合いながら学ぶことができるよう、一人一人のちがいを前提として、教職員や子どもたちと知恵を寄せ合い、未来に生きる学びを一つずつ積み上げたいと思います。

※ 6月より図工科の教諭が産休となり、図工科は、産休代替教員が担当いたします。
よろしくお願いいたします。

生活指導だより

生活指導部会

校舎内は静かに歩こう

6月は梅雨の時期に入り、廊下や教室内が滑りやすくなります。怪我を防ぐために大原小学校では、毎年次の合言葉で児童に指導しています。は・・・走らない、　さ・・・さわがない、　み・・・右側通行。この「はさみ」を合言葉に、安全・安心な学校生活となるよう、歩行の仕方、雨の日の休み時間の教室など、校内での過ごし方を指導していきます。